

独立行政法人国際協力機構北陸支部支部長賞

だれかの笑顔のために

氷見市立北部中学校 三年 山下 渚

私は修学旅行のテーマ別学習で、JICA大阪国際センターを訪ねました。私
はそこで、青年海外協力隊の川島さんの体験談を聞いてきました。

川島さんが協力隊として行った国は、エジプトです。当然ですが、言葉はもち
ろん、生活も文化も違っていきます。そんなところで活動してきた川島さんは、と
てもすごいなあと思いました。

川島さんは体験談の中で、私たちに質問をされました。

「日本と外国の違いは何ですか。」

私たちは、言葉や宗教、生活や文化などをあげました。

「共生するために大切なことは何だと思いますか。」

私たちは、愛や思いやり、コミュニケーション、協力などをあげました。川島さんは、

「僕も同じようなことだと思っています。」

と、返してくださいました。さらに、今あげたことは、どれも外国に対してだけでなく、私たちの身近なことにも言えるのだと教えてくださいました。言われてみると、確かにそうだと思います。同じ日本でも、地方によって風習が違ったり方言があつたりします。気候の違いから、住まい方や料理の仕方にも違いが見られます。宗教も基本的には仏教が多いですが、宗派もいろいろあるし、キリスト教、その他自由です。実際、自分の家と友達の家を比べても、料理の仕方や味付け、家の人の考え方や習慣などは微妙に違うものです。それらすべてを、自分とは違うからといって拒んでいては生きていけません。また、地震や災害があれば、新潟だろうが、神戸だろうが、東北だろうが、日本全国からボランティアや義援金が集まるなど、協力し合っています。学校内でもクラス内でも人への思いやりや協力なしでは、何事も上手くいきません。

「活動に参加してよかったと思ったことはどんなことですか？」

今度は私たちが川島さんに質問すると、川島さんは、次の三つを答えてくださいました。子どもたちと遊べたこと、違う文化にふれることができたこと、そして文化が違うことで、つらい時間があつたことです。私にははじめ三つ目の答えがどうしてもよかったことなのかよくわかりませんでした。けれど、あとでよく考えてみると、つらい時間を過ごしたことで成長することができた、という意味なのかなと思いました。実際に現地で活動してみないとわからないことがきつとたくさんあるのだと思います。

最後に川島さんは、JICAなどでボランティアをすることだけではなく、日常で行うささいなことがだれかの笑顔をつくっていくのだというメッセージを伝えてくださいました。

国籍や人種などには関係なく、共生・共存していくことは、とても大切なことだと思います。そして、そのためには、一人一人の協力が必要だと思います。

今、私たちがそのためにできることは、たくさんあるはずです。川島さんのメッセージもその一つだと思います。人を傷つけるのではなく、みんなが笑っていられるように、自分の行動から見直していききたいです。

私のささいな言動が、だれかを支え、前向きになったその人の言動がその次の人を支える。そんな人と人とのつながりが連鎖して、大きな輪になっていけばいいなと思います。

みんなが笑顔になるように…。

